

# 生命、



消防隊は一番に到着



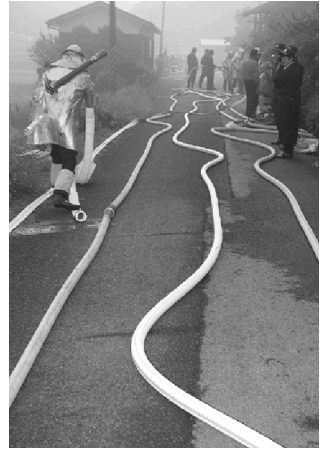
消防隊員がホースをつなぐ



到着後、数分で放水

「ウーウー、カンカン、ウーウー」と、甲高いサイレンを鳴らして消防自動車が出動。10月19日、町消防団（宮脇光男団長）は、西部広域消防、金持自衛消防と合同で本番さながらの消防演習をしました。

演習は、金持地区の公民館からの出火を想定。朝の6時半に、第一通報者からの一報を役場が受け、防災無線を通じて、全消防団員に出動を要請しました。乗り、本部からの無線指示に従い火災現場へ。まず、いち早く到着したのは、今年4月に導入した赤バイ隊（緊急消防自動車）の3人。すぐに現場の状況を確認しました。その後、次々と消防車が到着。団員は着くやいなやホースを次々と延ばして火点へ。水利が悪い現場ではありましたが、板井原川から水を確保し、約200メートルもホースを延長し、すばやく放水しました。今回は、町消防団5台、西部広域消防1台の車両と団員ら80人が参加。最後に宮脇団



ホースを200メートル延長

長が「現場への到着時間としても早くすばらしかった。今後も消火訓練を重ね、迅速に活動できるようにしてほしい」と訓練を振り返りました。町消防団（77人）は「住民の生命・財産を守るぞ」と決意に燃えており、通報から短時間で出動できるよう体制をとっています。団員は、それぞれが仕事をもちながら、いざという時のため、夜間訓練をするなど日々努力しています。



頼りになる町消防団

この日、消防演習に参加した金持自衛消防（若林太一自治会長）は、演習後、消火栓を使った消火訓練をしました。地区住民約40人が参加。西部広域消防署員の指導を受けながら、消火栓の使い方、ホースの連結、放水の仕方などを実際に体験し、万一の火災に備え、意識を高めました。広域消防署員は「火災時には、慌てず冷静になり、適切な判断をすること。そのためにも日ごろの訓練が大切で

す」とアドバイス。実際に放水訓練をした参加者は「放水時の水圧にはおどろきました。初めての訓練だったので、学ぶことがたくさんありました」と話していました。自治会長の若林太一さんは「初めて体験する人がほとんどで、訓練は大きな成果がありました。訓練も大切ですが、消防の世話にならないよう、日ごろから火災にならないようにすることが何よりも大切です」と話していました。

成果のあつた消火訓練「金持自衛消防」

## 訓練は大切。でも—— 火を出さないことが一番



「消火栓接続の後はホースを延ばす」真剣に訓練